

国際的に重要な国立自然保護区「ボロニスキー」(Bolonskiy) 湿地における鳥が多く集まる場所の調査

- 1 自治体名：ロシアハバロフスク地方
- 2 発表者名：マカリン・アンドレイ (Makarın Andrei) アムルスク市立補足教育施設「自然愛好家」青少年環境・生物センター、7年生
- 3 活動期間：2018年の調査結果のまとめ
- 4 活動場所：ハバロフスク地方アムールスキー地区
- 5 活動参加人数：30名(少年環境探検隊「フォルミカ」(Formika)の参加者)
- 6 活動を始めた経緯：スレドネ・アムールスカヤ低地に位置しているすべての湿地において鳥が多く集まる場所の環境状況調査の一環として始めた。

7 発表要旨：

ハバロフスク地方には、多くの水鳥が生息している湿地が豊富にある。湿地は独特な機能を持ち、多くの民族の生活様式の重要な要素になっている。

湿地は薬用植物の特別な源となっている。湿地は、植物と動物の多様性という点が特徴的である。

スレドネ・アムールスカヤ低地(Sredneamurskaya)は、ロシア連邦の極東地方の南部に位置し、多数の冠水草原、沼地、泥炭地、淡水湖、小川、河川、水路がある。

少年環境探検隊「フォルミカ」(Formika)のメンバーは、数年間をかけて、スレドネ・アムールスカヤ低地の北東部に位置しているボロニ湖(Bolon)とその周辺の湿地を調査した。

主な調査対象は、ここで生息している水鳥と移動時期に来る渡り鳥である。

ボロニ湖は、ボロニスキー国立自然保護区(Bolon)の中にあり、その面積は338km²である。ボロニ湖には、ハルピ川(Harpi)、セミ川(Semi)、セムニユル川(Semnyur)を含めて49の川が流れ込む。

スレドネ・アムールスカヤ低地の湿地には、300種類の植物があり、そのうち5種類はロシア連邦とハバロフスク地方のレッドデータブックに記載されている。

代表的な動物は、両生類及び爬虫類が11種類、魚が52種類、鳥が179種類、ほ乳類が40種類である。

湿地の快適な環境のおかげで、鳥の多様性が高く、集中的にその周辺で巣を作っている。渡り鳥の移動時期には、ここに約120万羽の鳥が集まっている。アムール川(Amur)周辺及び極東地方の南部に生息するほとんどの鳥をここで見るができる。

179種類の鳥のうち、コウノトリ(Oriental stork)、ナベズル(Hooded crane)、タンチョウ(Red-crowned crane)、サカツラガン(Swan goose)、カリガネ(Lesser white-fronted goose)、オオワシ(Steller's sea eagle)、ヘラシギ(Spoon-billed sandpiper)の7種類が絶滅危惧に瀕している。

ボロニスキー国立自然保護区の中でコウノトリの巣が51確認された。その巣うち15が人工の柱に存在した。少年環境探検隊「フォルミカ」の観察結果によると、保護区に生息するコウノトリの個体数は安定しているということである。

コウノトリを含めた自然界の鳥を保護するためには、保護区及び天然自然公園を増やしたり、人工の柱を設置したり、森林火災をなくす運動をする必要がある。

ボロニスキー国立自然保護区及びスレドネ・アムールスカヤ低地の湿地は、水鳥調査の観点から、国内外の生態学者、鳥類学者、エコツアーにとって関心の高い場所である。

私たちは様々な国からここに集ってきたが、それぞれの国にもきっとこのような特別な湿地があるでしょう。その湿地を保全することによって、地球の生物多様性を保護することができるでしょう。